

【筑波教会（川越教会）】

2025 相互訪問報告(筑波教会) 川越キリスト教会との相互訪問

瀧澤由

2025年度の「きたかん相互訪問」は筑波教会と川越教会との間で行われました。2月15日、冬の寒さがゆるんだ気持ちのいい主日に、川越教会を4人で訪れることができました。筑波教会を出発して圏央道を走り、1時間10分ほどで到着いたしました。

川越教会の敷地に入っていくとき、駐車場の奥に薪が積まれているのを目にしました。車から降りると目の前に木のぬくもりがあふれる素敵な会堂があり、奥には暖炉がありました。その暖炉の周りを囲んで座れるスペースがあり、とくに冬の間はみなさんそこで教会学校やさまざまなお話をされるそうです。なるほどそのための薪なのかと思うと同時に、自分の体を犠牲にして人々を招きあたためる薪は、主イエスのお姿に重なると感じました。十字架によって私たちを救ってくださった主を囲み、心が燃やされ、身近な方を招く、そのような教会でありたいと思われました。

川越教会での礼拝は川越と筑波合わせて20名に満たない人数でしたが、その分心ひとつに、ともに賛美し、片山啓さんの証や田中先生の説教に耳を傾ける、落ち着いた礼拝となりました。午後の交わりの時間には、ほとんどの方が残ってくださり楽しいひと時を過ごしました。エビやイカ、ホタテとスパイスの調和が絶妙なシーフードカレーと、刻んだ舞茸とひき肉の旨味が茄子によく馴染んだキーマカレーの「あいかけカレー」、付け合わせもトマトの塩昆布あえと教会の方が育てた朝採れブロッコリーという豪華でおいしいランチを一緒にいただきました。普段は教会で食事を囲む機会がありませんが、皆さんが楽しそうに準備してくださっていて、その姿がとても印象に残っています。宇佐見章裕さんによる筑波教会の紹介を、みなさん興味深く聞いてくださり多くの質問をいただきました。陽気も建物も、そしてなにより、ともに主を仰ぎ見る信仰の兄弟姉妹のあたたかさを感じる恵まれた一日となりました。

3月22日には川越教会から4名の方が、教会学校の時間から筑波教会を訪ねてくださいました。私は小学生以下の子どもたちのジュニア科にいましたが、丸山先生がいらしてくださいました。その中のジュニア科のプログラムに、子どもたちに月ごとにみことばを覚えてもらう暗唱聖句の時間があるのですが、子どもたちもその日は特にやる気に満ちあふれ2回発表してくれた子もいたなど、大きな刺激を受けました。後の時間で丸山先生がそのことにコメントくださり、リーダー一同励まされました。

礼拝の中では、これまで多くの教会での歩みを経験された丸山由紀子さんの証を伺い、ともに歩んでくださる主の導きを感じ、感謝でした。説教では丸山先生を通してゲッセマネの祈りは「宇宙一の祈り」とであるという力強いメッセージをいただきました。キリストの誕生、受難、復活などは毎年同じ時期に聞くクリスチャンとして大切なメッセージですが、だからこそ普段と違う方に説教していただくことで、新しい発見があり

素晴らしい恵みの時間でした。午後の交流会では、川越教会の方々が深淵を受け答えをしてくださる姿に元気をいただきました。

今回の相互訪問はどちらも大変恵まれたひとときとなり感謝でしたが、やはり信仰の継承や若い世代への伝道は、多くの教会が抱える共通の課題であるとあらためて認識する時でもありました。課題に対して知恵を出し合い、ともに解決を目指していく、そのきっかけとしても相互訪問が用いられていけばと願い祈っております。